

## 農薬散布前に必ず確認しましょう

### 農薬飛散防止のために

#### チェック項目

#### 立地条件・散布条件の確認!

- 周りは他の作物を栽培している圃場ですか?
- 近くに貯水池や川などの水系はありませんか?
- 風の強さはどうですか?

作物や収穫日を確認  
散布方向や風向きに気をつける  
風が強い時は散布をしない

#### 近接作物の確認!

- 隣接した圃場に収穫間近の他の作物はありませんか?
- 遮蔽シート・ネットなどは使っていますか?

散布日を変える等調整する  
きちっと張られているか確認

#### 散布器具の確認!

- 散布器具のノズルは飛散低減タイプですか?
- 散布圧力や風量は調節しましたか?

作物に合わせて選ぶ  
圧力を上げすぎず、風量は絞る

#### 散布方法の確認!

- 調整した散布液は適切な量ですか?
- 作物のない方向に散布はしていませんか?
- 散布器具は作物に近づけて散布していますか?

必要以上の散布は避ける  
ノズルの方向に注意する  
できるだけ作物に近づける

下記の項目の前にある  
□にチェックを入れて  
確認できます。



### 農薬適正使用のために!

#### チェック項目

- 散布する作物は農薬ラベルの適用作物に入っていますか?
- 農薬の定められた使用方法を守っていますか?
- 使用する予定の防除機・器具に不具合はありませんか?
- 水田での散布では圃場外に流出しないようにしましたか?
- 農薬を触れた手で収穫物を扱っていませんか?
- 散布記録を残しましたか?

適用のない作物には使用しない  
使用量・希釈倍数・使用時期・成分ごとの総使用回数は必ず守る  
日ごとの管理を徹底し、使用後は洗浄をする  
止め水をしっかりする  
農薬を使ったあとは、手を洗う  
圃場・作物ごとに、散布月日・農薬名・散布濃度・量を必ず記録する

農薬の飛散は、気象条件、立地条件、散布器具や農薬の種類など、多くの要因が考えられます。農薬散布に伴う飛散は、近接作物への農薬残留の他、周辺環境への影響などにもつながります。もし、飛散による何らかの事故が発生した場合は、自分自身が被害者にも加害者にもなってしまいます。

地域の生産者同士の連携、地域の指導者への相談など、こまめに行なうことが大切です。安全・安心な農産物を生産していくために、農薬の使用法を守るとともに、これまで以上に飛散防止対策に努めていきましょう。

もっと安全・安心に、これまで以上に

# 農薬散布に気をつけましょう



食品衛生法の改正により、すべての農薬、作物に残留農薬の基準が定められ、法律によって農産物・食品の流通が規制されます。

農薬の適正使用はもちろんのこと、周りの圃場の作物へ農薬が飛散しないよう注意するとともに、地域一体となった取り組みが大切となります。

食品衛生法にポジティブリスト制が導入され、いままで残留基準値が決められていなかった農産物にも一律の厳しい基準が設定されます。定められた基準を超えて農薬が残留する食品は販売等が禁止されるため、散布する薬剤が周りの圃場に飛散し、農作物に残留することのないよう、これまで以上に、農薬散布においては飛散防止に気を付けなければなりません。

### 残留農薬基準のポジティブリスト制度とは・・・

食品衛生法に基づく残留基準値が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の販売等を原則禁止する制度。(平成18年5月29日より施行)  
一定量とは、「人の健康を損なうおそれのない量として厚生労働大臣が定める量」として、原則0.01ppmとなる。(いわゆる一律基準)





農薬の適正使用はもちろんのこと、周りの圃場、作物へ農薬が飛散しないよう散布時には注意しましょう。

## 散布しようとする作物以外に農薬がかからないように細心の注意を

### 風のない時を選んで散布

農薬の飛散の最大要因は、風です。  
風のない日や風の弱い時刻を選んで散布しましょう。  
また、散布中でも風向きや風速は変化するので常に注意が必要です。

### 散布の位置と方向に注意

農薬は対象とする作物だけにかかるようにできるだけ作物の近くから散布しましょう。  
また、圃場の内側に向かって散布するようにします。  
高さのある作物などは、枝葉のない方向へ飛ばないように注意します。  
スピードスプレーヤーでは、ノズルの配列を樹型に合わせて調整し、余分な放出を少なくします。

### 散布機の圧力と風量は適切に

圧力が高くなると細かい粒子が発生し、飛散しやすくなるので、圧力は低めに抑えます。  
スピードスプレーヤーは、過大な風量は避け、樹体に到達する程度に調節します。

### 散布水量は適切に

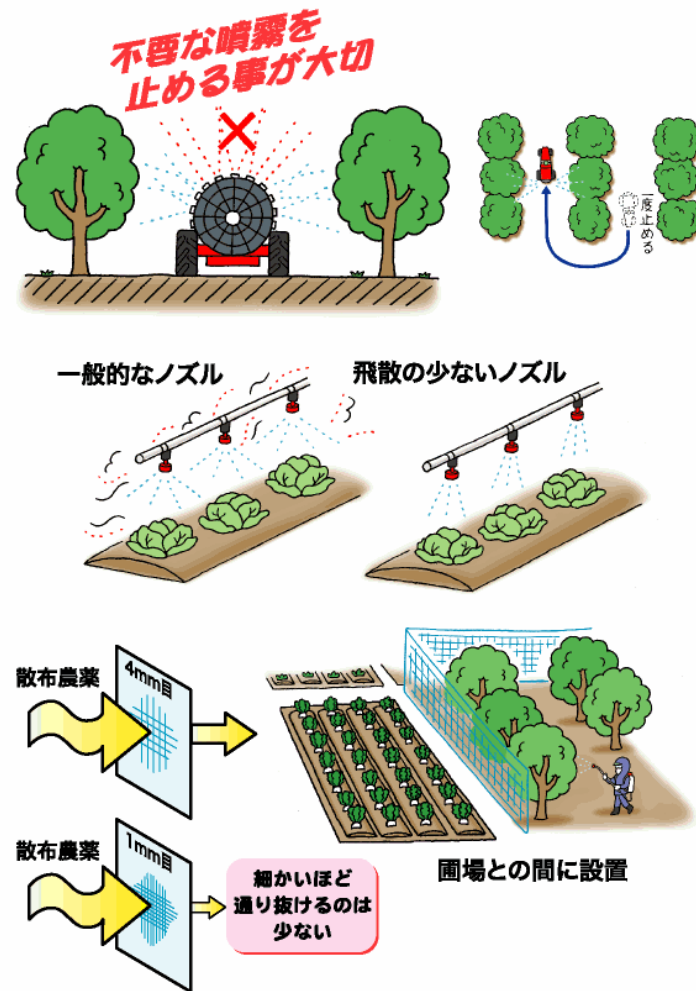
散布水量が多くなるほど飛散する割合も増えます。葉面が濡れたらそれ以上散布しないなど、無駄な散布をしないようにします。  
また、作物のないところではノズルを止めましょう。

### 適切なノズルを選びましょう

一般的なノズルは粒子が小さい(0.1mm以下)ため、浮遊し飛散しやすくなっています。飛散の少ないノズルに切り替えることも効果的です。

### 遮蔽シート・ネットの設置も効果的

防風などで使用されているネットを圃場間に設置することも飛散防止に有効です。細かいあみ目の方がより効果が高くなります。  
近接作物を直接シートで一時的に覆う対策もあります。



地域一体となった取り組みが大切です。

## より飛散しにくい剤型を選びましょう

農薬の飛散は散布粒子が小さいほど起こりやすくなります。粒剤など、より飛散しにくい剤型に代えることでも効果があります。

散布しようとする作物、周りの圃場の作物の状況を確認し、より多くの作物に使用できる農薬を選ぶなど、使用する農薬についても見直しましょう。

また、発生予察情報に基づき、散布回数を減らすことも検討しましょう。



## 決められた農薬の使用法を守りましょう

使用前には農薬のラベルに書かれている適用内容を確認し、散布できる作物や使用量・濃度、使用時期そして成分ごとに定められている総使用回数を必ず守って使しましょう。

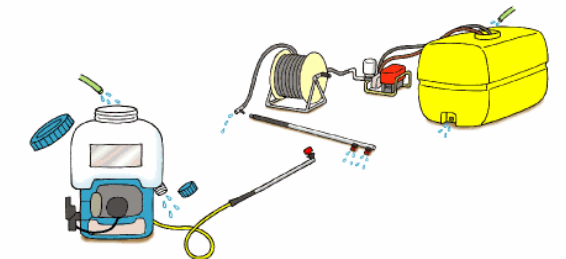
散布した後は、圃場ごとに使用した農薬や作業内容を必ず記録しておきましょう。



## 使用する散布器具に農薬が残っていないか確認しましょう

前回使用した農薬が散布器具に残っていたりすると、作物に薬害が生じたり、収穫物に農薬が残留してしまったりなど、思わぬ事態がおこります。

散布器具を使用した後は、タンクやホースなどに農薬が残らないようにしっかりと洗浄して、日ごろから管理を徹底しましょう。



## 自分だけの注意では防げない部分があります。地域一体となって対策を考えましょう

地域一体となって農薬飛散防止のための連絡体制を整え、次のような取り組みを実行しましょう。

- 散布農薬の見直し  
より多くの作物に適用があり、収穫日近くまで使えるような農薬を選定することで、飛散した場合のリスクを減らすことができます。
- お互いに連絡を取り合う  
周りの圃場で収穫直前の作物がある場合は、散布日や収穫日を変更するなどの調整をしましょう。
- 作付けの工夫も  
隣の圃場との間隔を広げたり、隣接する圃場では作付けする作物を替えるなどの工夫をしましょう。

